共同講座開設式に臨む（右から）森脇専務、藤田社長、福田眞作弘大学長、廣田和美医学研究科長

弘大　バリューHR　東京海上HD

健康寿命延伸へ共同研究

弘前大学とバリューHR（本社東京）、東京海上ホールディングス（HD、同）は9日、共同研究講座「健康寿命延伸学講座」の開設式を開いた。弘大の「岩木健康増進プロジェクト」健診のビッグデータを基に、病気の予測モデルや、健康習慣を身に付けてもらうノウハウなどを研究し、保険商品の開発などにつなげる。

バリューHRは、企業の健康保険組合の運営や保健指導などが業務で、現役世代150万人以上の健康データを管理する。東京海上HDは損害保険や生命保険のほか、医療コンサルタントなどの子会社もある。両者は昨年11月に資本提携している。

共同研究では、岩木健診やバリュー社のデータを、保険業で培った東京海上グループの分析力で調べ、生活習慣病などにかかりやすい人のタイプを割り出す予測モデルを開発。健康習慣を、さまざまな人に合わせて提供するノウハウも研究する。期間は8月1日から3年間。

開設式は大学内で開かれ、バリュー社の藤田美智雄社長（弘前市出身）が「健康寿命の延伸に取り組んできた。超高齢化社会で社の役割を果たしたい」、東京海上HDの森脇陽一専務は「3年間で一つでも多くの知見を得て、社会に役立てる役割を担いたい」と語った。

（赤田和俊）